

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル2PRA 分科会

第9回会合議事要旨

日時:2015年4月14日(火) 13:30~18:00

場所:JANSI D会議室

出席者:

委員:阿部(主査),成宮(副主査),中村(幹事),石川、小野田、楠木、豊嶋、西村、橋本、濱崎、渡邊(廣川委員代理)、松中(松尾委員代理)、山本 13名出席

常時参加者:井上、宇井、野田、福田、村田、野村 6名出席

配布資料:

P10SC9-1:第8回レベル2PRA分科会議事録

P10SC9-2:人事について

P10SC9-3-1:今後のスケジュールについて

P10SC9-3-2:2015年秋の大会企画セッション提案書

P10SC9-4-1:リスク専門部会等への中間報告結果について

P10SC9-4-2:PRA活用検討タスク議事メモ

P10SC9-4-3:レベル2PRA実施基準 目的の記載について(PRA活用検討タスクでの資料)

P10SC9-4-4:レベル2PRA実施基準における「目的」の記載の修正案

P10SC9-5-1-1:箇条1-3コメント対応表

P10SC9-5-1-2:箇条1-3改定文案

P10SC9-6-2-1:箇条4-6コメント対応表

P10SC9-5-2-2:箇条4-6改定文案

P10SC9-5-3:後半箇条の主な論点と現時点の対応状況について

議事要旨(敬称略)

議事に先立ち、委員16名中13名出席(分科会開始時点)で定足数を満たしていることが報告された。

(1) 前回議事要旨確認

中村幹事より、資料P10SC9-1に基づき、前回議事要旨について説明があり、正式版とすることで承認された。

(2) 人事案件

中村幹事より、資料 P10SC9-2 に基づき、高田委員の退任について報告された。

(3) 今後のスケジュールについて

中村幹事より、資料 P10SC9-3-1 に基づき、今後のスケジュールが紹介された。5 / 26 に第11回分科会（15時から）を追加開催し、6月のリスク専門部会に本報告することとなった。

(4) 2015年秋の大会 企画セッション 提案書について

成宮副主査より、資料 P10SC9-3-2 に基づき、2015年秋の大会の企画セッションとして、レベル2 PRA 実施基準の改定概要についてプレゼンすることとしたい旨の提案がなされ、了承された。

(5) リスク専門部会等への中間報告結果について

①中村幹事より、資料 P10SC9-4 に基づき、リスク専門部会中間報告結果について報告された。部会での主なコメントは以下の通りであったとのこと。

- ・「目的」を記載する意義を載せることについて、前例がないなどの意見があり、再度分科会で考え方を整理することになった。そのため、4 / 13 の PRA 活用検討タスクに説明し、そのコメントを踏まえた文案を作成することとした。
- ・レベル2 PRA 特有のウオークダウンの記載についてコメントがあったため、文案を作成することとした。
- ・SA解析コードの位置づけについてコメントがあったため、その記載を検討することとした。

②中村幹事より、資料 P10SC9-4-2 に基づき、PRA 活用検討タスク（4 / 13）でのコメントについて紹介された。タスクの結論として、目的を載せることについては合意を得たが、文案についてコメントを受けて、分科会にて再検討することになったことが示された。

③宇井常時参加者より、資料 P10SC9-4-3 および資料 P10SC9-4-4 に基づき、PRA 活用検討タスクにおけるコメントを踏まえた「目的」に関する記載の修正案が提示された。

④村田常時参加者より、第2文の「レベル2PRA 実施の目的は」という書き出しについて、実施目的は利用者が自由に決めるべきものであることなどから、記載することに対して反対であること、一方、「実施の目的は・・・」の書き出しを修正すれば記載することに合意であることを述べられた。また、実施の目的を記載する理由に関して質問があった。第2文の「レベル2PRA 実施の目的は」という書き出しについて、ここは「標準の目的」を書くべき個所であり、PRA の実施目的' を書く箇所ではない。また、' PRA の実施目的' は利用者が決めるべきもので、それを標準で定めるのは行き過ぎである。以上の理由により、標準案本文に' PRA の実施目的' を記載することには反対であり、どうしても言及したいということなら、附属書（参考）あるいは解説に書くべきとの意

見が合った。

- ⑤ 宇井常時参加者より、実施の目的を記載する理由として、ASME/ANS や IAEA の標準でもエンドースや品質向上を目指して策定してきたものであること、今後の日本の PRA を計算だけで終わらせないため、PRA の実施に対するメッセージも含めるべきであること、目的や目標を定めずに活動しても大抵どこにもたどり着かないものであることが述べられた。

議論の結果、「レベル 2 PRA 実施の目的は・・・」という書き出しについては、ASME/ANS の標準（PRA の説明的な表現）を参考に、再度記載方針を検討して修正案を作成することとなり、次回分科会にて再度議論を行うこととなった。

(6) 標準改定文案の議論

- ① 中村幹事より、資料 P10SC9-5-1-1 に基づき、分科会コメントとそれに対する対応方針について報告された。
- ② 橋本委員より、資料 P10SC9-5-1-2 に基づき、付属書 AA (参考) および付属書 AB (参考) の記載内容について説明がなされ、議論された。各委員および常時参加者から出された意見を踏まえて修文することとした。
- ③ 豊嶋委員より、資料 P10SC9-5-2-1 および資料 P10SC9-5-2-2 に基づき、箇条 4-6 の記載内容について説明がなされ、議論された。各委員および常時参加者から出された意見を踏まえて修文することとした。
- ④ 中村幹事より、資料 P10SC9-5-3 に基づき、後半箇条の主な論点と現時点の対応状況について説明がなされ、議論された。各委員および常時参加者から出された意見を踏まえて修文することとした。

- (7) 次回分科会は、5 / 7 (木) とする。

以 上